

# おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 20 号 (10 月 13 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 県新人準優勝も課題を残す

10月10日(日)、11日(月)天童のべにばなスポーツパーク第二運動広場(人工芝)にて、県新人戦の準決勝、決勝(および第三代表決定戦)が行われました。10日準決勝の山東の相手は米沢工業。今年の夏の茨城遠征で(偶然ですが)一緒させてもらったチームで、Bチームでの対戦は経験済み。地区大会では苦戦したようですが県新人戦では勢いに乗って勝ち進んできたチームであり、米工に敗れたチーム関係者への「聞き取り調査」では、とにかく勢いがあり思い切ってシュートを打ってくるとのこと。山東としては、米工に勝てば10日の段階で1月28日(金)~30日(日)にJビレッジで行われる東北新人への出場が決まるので、何としても勝ちたいところ<sup>1</sup>。

絶好のコンディションの中、試合はスタート。前の週の東海大山形戦において、球際で強く迫ることができず、ヘディングはフリーでやられ放題になるなど、これまで山東の伝統であった「下手だけど真面目に頑張る」ことができずに劣勢を強いられたことから、今日はどうか、とかなり不安な状態で試合に入りましたが、なかなか良い立ち上がり。落ちついたボール回し、積極的な仕掛け、球際での厳しさ、いずれも準決勝進出にふさわしい内容で一安心。DFとMF間の低い位置(味方ゴールに近い位置)でのボール回しでサイドチェンジを何度も行いつつ、ボランチが空いたらそこを使い前を向いて攻撃の起点になってもらったり、ボール回し中にFWが良い走り込みで敵DFラインの裏に抜けだしたときにはCDFから正確なロングボールが繰り出されるなど、継続的に課題としてきたことが形になる前半。前半の中盤、敵DFライン裏へのボールを、FWがスピードの変化で敵の前に体を入れ換える素晴らしいプレーで抜けだし、自分の前にはGKだけという絶好の状況のなか冷静にゴールに流し込み、先制。優勢だっただけに少しでも早くゴールが欲しかったが、チームを落ち着かせる得点となる。その後も攻め立て、サイドからの崩しから追加し、前半で2-0。後半はメンバーを入れ替えながらも優勢に試合を進める。FW多田がハットトリックで3-0にすると、顧問が「ゴメ(ゴメスこと堀込)、多田ばかりで悔しくないのか?」と人一倍ゴ

<sup>1</sup> 今年山形県の出場枠が三つなので、10日に負けても11日に勝てば東北新人に出場できます。3年に一度、枠が二つだけの年があったはず(東北6県で3年に1度、枠二つの年を持ち回り)。一昨年度、鬼嶋主将の代では準決勝で山形中央に負け東北新人3位でしたが、その3年に一度の年に当たってしまい、その年は東北大会出場ならず(ということは来年度の枠は二つです)。こう思い出してみると、鬼嶋主将の代は、過去5年で東北新人にも東北選手権にも行けなかった唯一の代で、不運の学年だったことが分かります。顧問の見立てでは、実力は5年のうち1、2を争うものですが、めぐり合わせというものがあつたようです。ただ、その代の経験が下の学年に活かしているとは言えるわけで、伝統に無駄というものはないようです。

ールへの意識の高いゴメに櫛を飛ばすと、その直後、敵ゴール前で左斜め後ろにこぼれたボールをゴメが戻りながら振り向きざまに左足を振りぬくと、今まで見たこともないような素晴らしい軌道でボールが敵ゴールに吸い込まれ、4 - 0。「キックが下手だ、特に左足が全然だ、よくJrユース時代、FWでやれていたものだ」とこれまでシュート技術(キックの精度)の低さを酷評し続けてきた選手だけに、驚くばかりの得点。顧問の評価が良い方向に覆されるのは、うれしいばかり。終盤、精度の低いプレーが続き、米工に攻め込まれる時間があったものの、FWがこぼれ球を押しこんで5 - 0とし、試合終了。良い試合内容、東北新人出場決定と、気分良く天童を後にしました。

11日決勝の相手は羽黒高校。県総体でも決勝で当たったチャンピオンチーム。日大山形、山形中央と、今年度プリンス・リーグを戦ったチームを撃破して勝ち上がり、文句のつけようのない形で決勝進出してきた。決勝の結果は、せいぜい東北新人において組み合わせが多少変わる程度の影響しかなく、決勝ははっきりいって消化試合ですが、羽黒相手にどこまで山東のサッカーができるかを知る絶好の機会なわけで、当然全力で臨みました<sup>2</sup>。

試合が開始されると、ボールが足につかない状況ながら、羽黒の圧力に押され始める。山東は巧いチームじゃないだけに、ボールの蹴り合い・競り合いにおいて後手を踏み続けると打つ手がなくなるわけだが、そんな試合展開を予想させる立ち上がり。準決勝の内容が良かっただけに、楽しみに決勝に臨むも、劣勢。羽黒アタッカーのプレースピードに付いて行けないシーンが多発。山東はカウンターに活路を見出すのみだが、山東の選手の駆け上がりより羽黒の選手の戻りの方が早く、何もさせてもらえない。羽黒のボランチは素早い帰陣の意識がかなり高く、山東のFWと羽黒のDFの競り合いのこぼれ球(セカンドボール)をことごとく拾う。カウンターにおいて長い距離をしっかりと走れるかどうか、は重要なポイントだが、羽黒の選手は長い距離を速く走れることもさることながら、早く走れる(次のプレーを読んでいるので早めにスタートを切れる、次のプレーへの意識が高い)ので山東の押し上げを寄せ付けない。ただでさえ劣勢なのに、ペナルティエリア内で山東CDFが2枚目の警告で退場、PKを与えているようでは、話にならず。前半10分で10人になり先制を許す。その後、10人でよく粘りましたが、結局3失点し、0 - 3で試合終了。多くの方が試合観戦、応援にいらっしゃりましたが、熱いゲームにすることができず、残念の一言。顧問今野の山東サッカー部時代の恩師佐竹先生(現在はある高校の校長先生をしていらっしゃいます)は、「(山東は)顧問以外完ぺきなチームだった」との言葉を残し、会場を去って行かれました。羽黒との差は、どこがどう、という話ではなく、とても大きなものであることだけははっきり分かった、そんな決勝戦でした。

ともかく、今大会、優勝することはできませんでしたが、「下手だけど勝つ」しぶとい山東らしいサッカーをすることができ、東北新人大会出場を決めることができました。選手諸君の頑張りには素晴らしいものがありました。また多くのOBの皆様、保護者の皆様、保護者OB・OGの皆様、そして山東応援団および山東職員の皆様のたくさんの応援を頂戴しました。ありがとうございました。東北新人では思い切って戦ってきます。しかしその前に！選手権がんばりますので、応援よろしくをお願いします。

10月24日(日)選手権二回戦 VS 米工 - 新南の勝者 11:00 ~ @米工グラウンド

<sup>2</sup> さらに言うと、今年のYリーグの結果により来年の県総体では準々決勝のところまで羽黒と当たる山に山東が入ったので、来年を見越してどのような戦いができるか/できないか、現時点で見極める絶好の機会となりました。